

2014年3月7日
株式会社日立製作所
国立大学法人北海道大学

日立と北大が共同開発した「陽子線治療装置 PROBEAT-RT」が 薬事法に基づく医療機器の製造販売承認を取得

株式会社日立製作所(執行役社長:中西宏明/以下、日立)は、このたび、2010年に国家プロジェクト「最先端研究開発支援プログラム」の採択を受けて、国立大学法人北海道大学(総長:山口 佳三/以下、北大)と共同開発を進めていたコンパクトで低コストな陽子線がん治療システム「陽子線治療システム PROBEAT-RT」について、薬事法に基づく医療機器の製造販売承認を取得しました。

2013年度中に、本システムを使用した治療が北大で開始される予定です。

「陽子線治療システム PROBEAT-RT」は、陽子線がん治療の世界的な普及をめざして北大と日立が共同開発した、コンパクトで低コストな陽子線がん治療装置です。照射方式をスポットスキャンニング照射方式のみに特化することを前提に、北大の放射線治療で培ってきた知見と、日立の持つ設計技術の融合により、ガントリー・照射ノズル・加速器を小型化し、装置の機器配置を見直すことで全体をコンパクト化しつつも使い勝手のよい国際競争力を高めた治療システムを実現しています。従来日立が販売している PROBEAT-III と比較して、周長 23m であった加速器は今回の装置では 18m に、最大外形長 11m、内径 3.5m であったガントリーを最大外形長 9m、内径 2.5m に小型化し、システム全体の設置面積を約 7割に縮小しました。今回は、小型化した陽子線治療システムについて、薬事法に基づく医療機器の製造販売承認を取得したものです。

「最先端研究開発支援プログラム」は、科学技術政策による大型の研究支援制度であり、2009年に公募が行われ、全国から 565 件の応募があった中から、2010年3月の総合科学技術会議で、日本の科学技術の将来を担う 30 件の「中心研究者及び研究課題」が決定されました。北大からは医学研究科白土博樹教授の「持続的発展を見据えた『分子追跡放射線治療装置』の開発」が採択されました^{注)}。放射線医療分野として唯一の採択であり、今後の日本の放射線医療/がん治療技術の発展を牽引するプロジェクトとして内外から注目を集めています。

「持続的発展を見据えた『分子追跡放射線治療装置』の開発」におけるシステムの共同開発では、北大の持つ「動体追跡照射技術」と日立の持つ「スポットスキャンニング照射技術」を組み合わせ、呼吸等で位置が変動する腫瘍に対して精度よく陽子線を照射することができる治療システムの開発と、治療システム全体の小型化が重要な課題となっていました。

なお、「動体追跡照射技術」と「スポットスキャンニング照射技術」を組み合わせた治療システムについては、現在、独立行政法人医薬品医療機器総合機構に製造販売承認を申請中です。

北大と日立は、医学・工学分野における両者の優れた技術・知識・経験を組み合わせ、今回の陽子線がん治療システム開発を通じて、QOL(クオリティ・オブ・ライフ)に優れた最先端の放射線医療がん治療に貢献していきます。

注) 本国家プロジェクト「持続的発展を見据えた『分子追跡放射線治療装置』の開発」では、陽子線がん治療システムの開発と並行して、共同提案者である京都大学平岡真寛教授が、X線治療の分野で、腫瘍を追いながら照射する追尾型画像誘導X線治療システムを開発する予定です。

■動体追跡照射技術の概要

動体追跡照射技術は、腫瘍近傍に2mmの金マーカーを刺入し、CT装置で予め腫瘍中心との関係を把握しておき、2方向からのX線透視装置を利用し、透視画像上の金マーカーをパターン認識技術にて自動抽出し、空間上の位置を周期的に繰り返し計算します。そして、金マーカーが計画位置から数mmの範囲にある場合だけ照射します。これを高速で行うことで、呼吸等により体内で位置が変動するがんでも高精度での照射を行うことが可能になります。これにより、動いているがんの範囲をすべて照射する方法に比べて、照射体積を1/2～1/4に減らし、正常部位への照射を大幅に減らすことが可能になります。

■スポットスキャンニング照射技術の概要

スポットスキャンニング照射技術とは、腫瘍を照射する陽子線のビームを従来の方式のように拡散させるのではなく、細い状態のまま使い、照射と一時停止を高速で繰り返しながら順次位置を変えて陽子線を照射する技術で、複雑な形状をした腫瘍でも、その形状に合わせて、高い精度で陽子線を照射することができ、正常部位への影響を最小限に抑えることが可能です。

■照会先

株式会社日立製作所 電力システム社 放射線治療推進本部 [担当: 淵上、大澤]
〒101-8608 東京都千代田区外神田一丁目18番13号
電話 03-4564-3565(直通)

国立大学法人 北海道大学 最先端研究開発事業支援室[担当: 鴨志田]
〒060-8638 札幌市北区北15西7
電話 011-706-7440(直通)

以上